

東北応援ツアー 宮城県コース

堀 眞琴 1986年卒 理工学部

「現地を訪問して思うこと」

今回、東北応援ツアーに参加する前は、もう5年も経過しているので、被災地がりっぱなインフラなり街が復興しているイメージを持っていました。しかし、現地を訪問して、土地の嵩上げ工事や役場・学校を建築している南三陸町、復興中の閑上(ゆりあげ)地区をみて、まだまだ、復興が進んでいない現実を知りました。なぜ、こんなに時間がかかるのか東日本大震災の被害が広範囲なので、人・もの・金が行き渡らないのだろうかと思いました。しかし、復興を進めるためには、この現実をマスコミや行政、政治などを通じて国民に知ってもらい、誰もが行動することが早道のように思いました。

特に、印象に残ったのは、5つの災害があった大地震、大津波、原発による放射線被害、その風評被害、これらの震災が風化している課題があることを認識させられました。この風化させない取り組みとして、校友会である新聞記者さまや高校先生の取り組み、特にファースト・ペンギンを題材にされていることに興味をもちました。

皆さんからいただいた現況と知見を、身近な方、家族や友人、職場の方に伝えようと思います。

今回、復興しても高齢者しか戻ってこないようなお話しをお聞きしましたが、昔のように人が集まるような復興は、地域魅力向上や雇用拡大をする必要であると思いました。雇用創出には、地域活性化事業つまり地域にお金がおちるしくみや産業創出などが考えられますが、前者は観光が思いつきました。今回の私たちのツアーのように被災地に語り部とともに視察し、その災害後の知見を学んでもらう。対象は会社の事業継続担当者や自治体の防災担当者、学生の修学旅行にも最適のように思いました。素人がふと思ったことなので、もう実施されているかも知れませんが。

また、個人的な支援として、周りの人に笹かまぼこや缶詰、日本酒などの特産品を紹介したいと思います。日本酒が好きなので、宮城県の地酒とあてに笹かまぼこや宮城県産の魚の缶詰で、微力ながら支援したいと思います。最後になりましたが、現地でご案内・ご説明していただいた先輩、対応していただいた現地の方々に色々とお世話になり感謝しております。